

## 露地野菜の技術向上と作付け拡大支援 [重点活動]

**対象** JAいしのまき(加工野菜部会、ホウレンソウ部会、セリ部会)、河北せり出荷組合

今年度の大きな成果として、「河北せり」がG I登録された。平成30年に登録申請してからおよそ2年半が経過した令和2年12月23日に登録された。

河北のせりはJAいしのまきセリ部会、石巻市河北せり出荷組合、皿貝農産組合が栽培しており、今回の申請にあたっては3団体が「河北せり振興協議会」を発足して行った。この登録により河北で300年間続いて来たせりづくりの伝統が守られるとともに、栽培方法や出荷方法が登録に基づいた方法に統一される。今後は、4～5月に春の新芽で新鮮な香りでクセが少なくやわらかい葉せりのシーズンとなる。しかし、地際から刈り取るため長距離輸送が困難でしかも期間限定な特産物となっている。是非、石巻で「葉せり」をご賞味頂きたい。



河北せりの収穫

## 担い手育成支援機関等との連携による新規就農者の確保・育成 [重点活動]

**対象** 就農希望者、新規就農者等

石巻地域への就農促進のため、関係機関との意見交換会を2回開催したほか、地域内の独自の就農支援策なども盛り込んだ「石巻地域新規就農ガイド」を作成した。これにより、就農希望者が何をどの順番で取り組めば良いのか、就農相談を受けた機関が次に何を案内すればよいかが見える化できた。成果として、今年度は管内で5人が青年等就農計画の認定を受けたほか、3人が認定を目指して就農計画を作成中で、普及センターで支援している。

また、就農後の経営管理能力向上を支援するため、希望者を対象に簿記講習会（基礎編、パソコン簿記編）を行った。



石巻地域新規就農ガイド（表紙）

## 管内法人の経営発展段階に応じた総合的な支援 [重点活動]

**対象** 集落営農組織、JA法人会

震災後、管内には土地利用型・施設園芸など多くの農業法人が設立され、震災前から活動しているものと合わせて法人数は100を超える。普及センターでは、関係機関と連携して各法人のニーズに合わせた情報提供や研修会の開催等により、経営安定化に向けた支援を行ってきた。

今年度は、コンサルティング会社講師による将来ビジョンの作成・共有に関するセミナーや、県内他地域の先進的法人から講師を招聘した事例紹介及び管内法人とのトークセッションによるセミナーを開催し、事業承継や人材育成への意識啓発を図った。



ビジョン作成のワークショップ

## ほ場整備地区における地域農業の担い手組織の育成支援〔重点活動〕

**対象** 鹿又・広淵・須江・北村・前谷地地区農用地利用改善組合

土地基盤整備の進展に伴う農地集積、担い手組織の育成について、関係機関(石巻市、J A、土地改良区、宮城県農業公社、県(農業農村整備部))と連携しながら総合的な支援を行った。農地集積戦略会議を各地地区ごとに3回開催された。また、令和3年2月5日、10日の2日間にわたって、全ての農用地利用改善組合と営農組合が合同で今後予定されている法人化に関して勉強会を開催した。普及センターが講師として法人化に関する県内の取組事例を参考に地域内の意向をアンケート調査等でしっかりと把握し、話し合い重ね、地域の営農ビジョンを策定、法人化の活動スケジュールを作成し着実な活動を展開する重要性を伝えた。



法人化に向けた勉強会の様子

## 鳥獣被害対策継続に向けた体制づくり支援〔重点活動〕

**対象** 稲井地区ニホンジカ対策協議会

ニホンジカによる農業被害が拡大する中、当協議会は区長が取りまとめ役となり、地域住民の共同作業による防鹿柵の設置や見回り等を行っている。

今後、被害対策を無理なく継続するため、効率的な見回りや区長引継等に活用できる被害対策マップの作成を支援した。集落毎の被害状況や柵の設置状況、重点点検ポイントをマップに落とし込み、誰でも分かりやすいものとなっている。

なお、本成果は管内鳥獣被害対策研修会でも紹介し、他地区への波及を図っている。



対策マップ作成のワークショップ

## 水稲農薬・化学肥料不使用栽培の機械除草現地検討会〔重点活動〕

**対象** 水稲農薬・化学肥料不使用栽培に取り組む生産組織（8農家1法人）

石巻地方では、みやぎの環境にやさしい農産物表示認証制度で米の認証区分①（農薬・化学肥料不使用栽培農産物）に8農家1法人が取組んでいる。

一般に、農薬を使用しないで米を生産する場合には機械除草が行われているが、技術の習得が難しいため残草し、低収量となる例が見られる。このため、機械除草技術の向上を目指した「水稲農薬・化学肥料不使用栽培の機械除草現地検討会」を6月23日に石巻市北上町で開催した。

参加者からは、機械の走行が思ったより速いと感想や、作業能力等の質問が数多く出されるなど、関心の高さがうかがえ、今後の技術レベルの向上が期待される。



機械の説明を熱心に聞く参加者



## 環境モニタリングを活用したいちご生産支援 [重点活動]

**対 象** 階上いちご復興生産組合・階上いちご第2復生産組合

環境モニタリングデータを活用したいちごの収量向上に向け、J Aと連携して気仙沼市階上地区のいちご生産者を対象とした栽培勉強会を開催した。

生産者ほ場を巡回した後に行われた研修では、生育ステージに応じた肥培管理や温度管理について農業・園芸総合研究所の研究者から指導をいただき、令和2年産の生育調査と環境モニタリングの結果をもとに、生産者間のデータを比較しながら収量向上に向けた環境づくりについて検討した。参加者からは「湿度が低いため改善したい。」「開花が遅れないように温度管理に留意したい。」等の意見があり、今後もモニタリングを継続し、生産改善に活かしていくこととした。



いちご栽培勉強会

## きくの生産安定と産地力の強化 [重点活動]

**対 象** J A南三陸花卉生産協議会

南三陸町志津川において、きくの生産安定に向けた露地電照技術や炭酸ガス施用技術について、現地試験等による効果の確認と情報提供を行い、技術の導入・定着を支援した。また、夏場の作業軽労化を図るため、現地検討会等で空調服の利用を働きかけた。

発生が多くみられる白さび病やべと病、ハダニ類への対策については、講習会を開催して防除の徹底を呼びかけたほか、連作ほ場での土壌病害の軽減に向け、土壌消毒に関する技術資料を作成し、全戸巡回による指導を行った。

「志津川きく」の産地強化に向け、今後も新しい技術や品種の導入に向けた取組を支援していく。



きく現地検討会

## 復興農地で営農する担い手組織への支援 [重点活動]

**対 象** 唐桑大沢営農組合

気仙沼市の唐桑大沢営農組合は、平成30年から営農再開し、復旧した畑地でそらまめやスイートコーン、かぼちゃなどの生産に取り組んでいる。

本年は前年の反省を踏まえ、土づくりや適期作業に努め、大きな失敗なく収穫を迎えることができた。地元のJ A直売所等で販売を行い好評を得た。また、新たに「南三陸春告げやさい」ちぢみゆきな栽培に取り組み、冬場の収入増加に結びつけることができた。普及センターでは管内3か所に設けた栽培実証ほ場の1つに位置付け、巡回指導等により継続して支援を行った。



新たに取り組んだちぢみゆきな

## 若手農業者の情報発信能力の向上 [重点活動]

**対象** 就農希望者，認定新規就農者等

就農希望者への就農相談や就農計画作成，各種事業活用に向けた支援を行う他，就農者には関係機関と連携して定期的な就農状況確認を実施した。

特に今年度は，若手農業者を対象に，情報発信技術の向上を目指して，人物や農産物をより魅力的に撮影する研修会を開催した。研修会では，参加者相互や参加者の農産物等の写真を撮り，消費者等に，よりアピールできる写真にするためのポイントなどについて，講師からアドバイスを頂いた。

今後も，新規就農者等のスキルアップにつながるよう，個別巡回や集合研修を通して支援を行っていく。



クラブ員相互に撮影実習

## 三陸道パーキングの農産物直売グループ支援

**対象** 本吉農林水産物軽トラック販売者の会（会員10人）

「本吉農林水産物軽トラック販売者の会」は，令和元年から三陸自動車道の本吉パーキングにおいて，隔週土曜日に軽トラックで農産物の直売を行っている。

令和2年度には中山間地農業ルネッサンス推進事業を活用して，ワークショップを3回開催し，魅力的な販売会となるよう運営方法や年間計画について検討を進めてきた。

普及センターでは，栽培品目や収穫時期に関する助言を行い，また，各会員の畑の土壌分析に基づいた施肥設計や土づくりに関する講義等を行って活動を支援した。



本吉パーキングでの農産物直売

## 酒米の生産・品質向上支援

**対象** 清流「蔵の華」廿一会

清流「蔵の華」廿一会（会員12人）は，気仙沼市新月地区で酒米品種「蔵の華」の生産に取り組んでおり，市内にある2つの蔵元に出荷している。

出穂期を迎える8月に開催された現地検討会では，会員全員のほ場を巡回し，稲の生育状況を確認した。普及センターからは，斑点米カメムシ類の防除や出穂期以降の水管理等について指導した。出席した会員からは「1等米を目指して，管理をしっかりしていきたい」との声が聞かれた。

普及センターでは，毎年開催される現地検討会や総会に参加し，酒米の生産・品質向上を支援している。



蔵の華現地検討会